

## 中国の古いそろばん

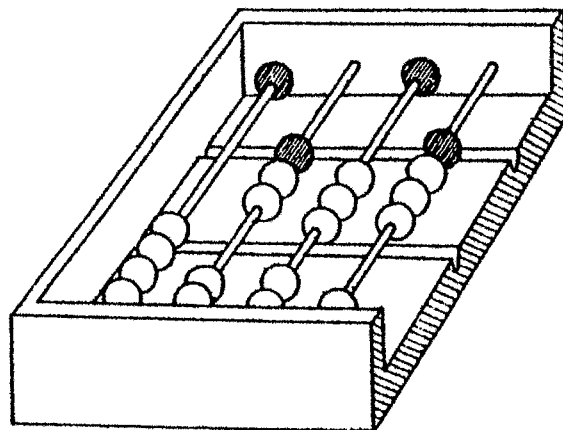
2世紀頃に中国で徐岳<sup>ジョウガク</sup>という人が、「数術記遺」という本を書きました。その本には太乙算、三才算など14種類の計算器具のことが書いてあります。その中に、

「珠算、四時ヲ控帶シ、三才ヲ経緯ス。」

とあります。6世紀頃の甄鸞<sup>ケンラン</sup>という学者がこれについて、次のような注釈を付けています。

「板ヲ刻ンデ三分シ、ソノ上下ノ二分ハモツテ游珠ヲトドメ、中間ノ一分ハモツテ算位ヲ定ム。位ハ各5珠、上1珠ト下4珠トハ色別シ、ソノ上ノ色ヲ別ツ珠ハ5ニ当リ、ソノ下ノ4珠ハ珠各1ニ当ル。下4珠ニ至レバ所領ス、故ニ四時ヲ控帶スト云ウ。ソノ游珠ハ三方ノ中ニオク、故ニ三才ヲ経緯スト云ウナリ。」

これをもとに多くの研究者が、当時のそろばんの形を想像していますが、はっきりしたことは分かっていません。



「数術記遺」のそろばん

(想像図)